環境情報誌

AOYAGI エコ

第 １５ 号

2015 年 10 月 8 日
青柳工業株式会社
環境会議

KES審査修了、継続が決まりました

９月８日 本年度のＫＥＳ環境審査が無事修了しました。今回は、スタンダード６版に適合されているかの審査で、活動内容全般で適合が確認されました。昨年から進めていた、記録類の電子データ化も高い評価をいただきました。心配していた、工場巡視中のインタビューも上手に対応できました。環境管理責任者が関部長であることは周知され安心していましたが、「最高責任者は」と聞かれビックリしましたが、事なきを得ました。最高責任者は社長が務めていますので、この際、覚えてください。大事はことは、この環境情報誌にこれからも掲載しますので、必ず確認してください。

水銀に関する水俣条約締結

水銀に関する水俣条約が、国連会議で批准され、水銀を使用した製品は、２０２０年までに、製造、販売をはじめ、輸出も出来なくなりました。水銀はその性質から古来より様々な物に使用されて来ました。有毒であることを知らず、若返りの薬として、服用されたこともあるそうです。現在も、蛍光灯や体温計、乾電池、化粧品の一部にもその化合物が使われ、農薬や防腐剤など広範囲にわたっています。この毒性は大変危険で世界じゅうで様々な、中毒を引き起こした歴史があります。徐々にその役割を終えて数年先は、蛍光灯や水銀体温計がなくなる時代が来ると思われます。

「水俣条約」を採択
国連会議 水銀 世界で規制

今月の生物多様性情報　生態系サービスに感謝と題し、展示会を開催

茨城県立図書館の脇にある もとの県庁内、交流サルーンという場所を使用して生態系に関する展示会を、９月５日から１２日まで開催しました。 最終日には展示物を提供いただいた、茨城地球温暖化防止推進員の柏さんに講演をお願いして、自然の恵の素晴らしさや、失われて行く現状、そうした元凶となっている温暖化を軽減するための、様々な取組みについて説明を受けました。参加者から寄せられた意見では、軽減策として実施されて新エネルギーの有効性、安全性など関心のあるテーマで議論を交わし、生態系に関する知識を深めました。

社長コメント　～ 環境活動の転換期を向かえて ～

当社の環境活動も１０年継続され、成熟した部分もあるが、電気や一般廃棄物の目標値のように行き詰まってしまった活動もある。これは、当社だけの問題ではなく、各企業に共通している。そのため、生物多様性活動など、新しい提案がなされたが、時間をかけて熟成させる必要がある。

今月の環境用語　「ＫＥＳスタンダード」

品質では、ＩＳＯ要求事項が発行され、それに従って品質マニュアルを作成しているが、ＫＥＳのスタンダードとは、ＫＥＳの要求事項と捉えて良い。スタンダードは、概ね５年に一度更新され、昨年６版に改訂された。当社として２度目の更新で、環境マニュアルも大幅に変更した。ただし、環境マニュアルは、品質とは違い、毎年更新が義務付けられているため、１１版発行となった。

今月の環境目標進捗状況

	今月の目標	今月の実績	今月の評価	本年目標累計	本年実績累計	累計達成率	全体評価
電気使用量の削減	16,698kwh	13,862kwh	達成	108,095kwh	103,505kwh	104%	↑
一般ごみの削減	67袋	66袋	達成	391袋	388袋	101%	↑
エコキャップを回収	807個	810個	達成	4,968個	6,162個	129%	↑
美化活動の実行	50%	50%	達成	50%	50%	100%	↑
生物多様性保護支援	10%	10%	達成	50%.	50%	100%	↑